

## 論文の和文要旨

論文題目	Presidentialism in a Divided Society: Afghanistan 2004 – 2009  分断社会における大統領制：アフガニスタン 2004-2009
氏名	MUZAFARY Ratib ムザファリー ラーティブ

本論文は、アフガニスタンのハーミド・カルザイ大統領の一期目（2004年～2009年）に焦点を当てた、民族・宗教的に分断されたアフガニスタン社会における大統領制の質的研究である。本論文における考察は、カルザイ大統領の一期目における行政機関と立法機関の関係の分析に基づいている。本論文では、一期目のカルザイ政権が、いかにして大統領制に付随する行政機関と立法機関の対立、諸制度の機能不全、政府の機能停止といった問題に直面することなく存続し得たのかを考察した。カルザイ大統領は議会内に自らの党派を持たず、下院 (Wolesi Jirga) はムハンマド・ユヌス・カヌニ (Mohammad Yonus Qanoni) が率いる反対勢力の国民戦線 (National Front) の影響下にあったため、これらの諸問題が発生し得る可能性は十分にあった。しかしながらカルザイ大統領は、反対勢力の影響下にあった議会において、自らの構想による法案を成立させるために必要な多数の支持を集めることに成功した。カルザイ大統領の一期目において発案された法案を見れば、大統領の構想による法案の

大多数は成立し、法として制定されていることが分かる。これは、カルザイ大統領が議会との対立を回避することに成功したことを示している。

ここで、以下の問いが生じる。

カルザイ大統領は、なぜ反対勢力のユヌス・カヌニの影響下にある議会との深刻な対立を避けることができたのか。また、カルザイ大統領は、自らの党派が無いにも関わらず、いかにして議会の支持を得ることができたのか。

本研究の主眼は、カルザイ大統領の一期目における行政と立法の関係を綿密に検証することで、上記の問いに答えることである。本論文では、はじめに、大統領のイニシアティブによる法案に対する議員の支持の度合いを独立変数として検証した。これらの法案に対する議員の支持の度合いを検証することの狙いは、議会においてカルザイ大統領がどの程度まで支持を集めることに成功したのかを明らかにすることにある。具体的には、各年に大統領が提案した法案の中で成立したものと不成立だったものを分析し、議会の提案による法案のうち成立したものと不成立だったものと比較した。これらのデータの分析により、カルザイ大統領が法案成立の過程で重要な役割を果たし、大統領自らのイニシアティブによる法案を滞りなく成立させるため、多数の支持を集めることに成功したことが明らかになった。

カルザイ大統領がなぜ議会の支持を集めることができたのかを明らかにするために、本論文では、内閣において連立を組む戦略を主要な独立変数として検証し、ターリバンの軍事的脅威といった危機的状況と利益を配分する行為をより影響の少ない変数として検証した。これらの3つの変数の影響を考察する際には、2009年8月から10月にかけての3ヶ月間の現

地調査で収集したデータを使用した。具体的には、成立した法案と否決された法案の数に関する統計的なデータ、政府の公文書、政権を支持する議員や反対勢力に属する議員に対するインタビューなどである。

上記データの分析によって明らかになったのは、議会において一定程度以上の影響力を持つ複数の民族・政治集団に要職を配分したことが、自らの支持党派を持たない中で多数の支持を得るためのカルザイ大統領の戦略だったことである。さらに本論文では、ターリバンの脅威を利用しただけでなく、議員たちに便宜をはかり、物質的な利益を分け与えたことが、議会において支持を得るために重要だったことを示した。

本研究により、分裂した政府や少数与党の政府を率いる大統領にとって、立法機関の多数の支持を確保するためには、憲法上の権限や支持党派の力以外の要素も重要な役割を果たすことが証明された。大統領が率いるアフガニスタンの初代政権は、内閣の要職を異なる政治集団に配分し連立を組むことと、議員たちに便宜や物質的利益を供与することで、議会の多数の支持を得ることに成功し、故に自らのイニシアティブによる法案の可決を実現できたのである。さらには、これらの要素が、議会内に支持党派を持たないことによって生じる不利益を相殺したのである。